

仁科盛信と武田氏

小林茂喜

・四六版、並製、カバー装、二六八ページ
・定価 本体二〇〇〇円＋税



武田氏最後の武将—仁科五郎盛信

天正10年。信州伊那の地に、織田信長の嫡男信忠が数万の軍勢を率いて侵攻してきた。迎えうつつのは、高遠城主・仁科盛信と三千の城兵たち。武田の最後を象徴する激戦の末、高遠城は落城、盛信も二十六歳の生涯をとじた。

重臣たちが相次ぎ武田を裏切り去っていく中、最後まで武田の武将としての意志を貫いた、信玄五男・仁科盛信。滅びに向かう武田氏の運命について考察しながら、彼の実像にせまる。



発行／信州教育出版社

TEL 026-232-0291 <http://www.shinkyō-pub.or.jp>



取扱い／しんきょうネット

TEL 026-233-1135 E-mail: sales06@shinkyō-net.co.jp

目次

はじめに 高遠城の桜

第一章 裏切りの連鎖

第二章 盛信の生立ちと兄弟姉妹

第三章 仁科五郎と諏訪四郎

第四章 仁科の地の盛信

第五章 高天神城救援せず

第六章 新府築城

第七章 高遠城の攻防

第八章 天目谷田野

第九章 女たちの逃避行

第十章 盛信の末裔たち

巻末資料

・仁科五郎盛信関係 詳細年譜

・天正年中 勝頼の主要な軍事行動

小林茂喜（こばやし しげき）略歴

昭和二十五年生まれ。明治大学文学部卒。長野県大町市在住。県下の高校、小中学校に勤務の後、現在大町市文化財センター調査指導員。信濃史学会会員。

武田氏の滅亡は、一門衆の一人、木曾義昌の裏切りに始まる。次々に重臣が織田方へ寝返り、諸城も降伏していく中、武田家当主の勝頼も最期の地・天目谷田野へと追いつめられていく。本書は、そうした裏切りの様子をはじめ、盛信が継いだ仁科の家の来歴や兄弟関係にふれながら、武田信玄五男の彼が「仁科盛信」となっていく経過などについても考察する。

武田の当主となる兄・勝頼と盛信は、それぞれ信玄に滅ぼされた名家・諏訪氏と仁科氏を継いでいた。勝頼は諏訪氏の血を色濃く引くのに対し、盛信は仁科氏とのしがらみはない。それぞれの名乗りや仮名を吟味しながら、二人のたどった運命について探る。

そして高天神城で武田と織田・徳川が繰り広げた攻防や、武田滅亡直前に葦崎に築かれた新府城と、勝頼の思惑。戦国の世の苛烈さを浮き彫りにしつつ、ついに織田の軍勢が伊那に攻め込み、高遠城主盛信率いる城兵たちとの激しい戦いが繰り広げられるさまをえがく。

文書・史料を丁寧に読み解き、仁科盛信の実像にせまる探究の書。

ご注文は、しんきょうネットまで **FAX フリーダイヤル：0120-25-1098**

【学校関係以外・長野県外のお客様へ】

※別途送料がかかります。お支払いは、郵便振替となります。

※FAXフリーダイヤルは、長野県内のみです。県外よりお申し込みの場合は、

E-mail：sales06@shinkyonet.co.jp または、TEL：026-233-1135 までお願いいたします。

仁科盛信と武田氏

注文書

令和 年 月 日

《学校関係の方》

学校名	学校
注文責任者氏名	

《学校関係以外の方・長野県外の方》

電話番号	
お届け先ご住所	〒

注文者氏名 (公用の場合は「公用」と記入)	冊数
計	冊

※ご記入いただいた個人情報は、発送業務以外の目的には使用いたしません。